別添４

別紙３

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
「アジア太平洋地域における薬剤耐性病原体のアウトブレイク対応力強化に資する研究（25CA2034）」
代表研究報告書

研究代表者　山岸　拓也　国立感染症研究所　薬剤耐性研究センター
研究分担者　黒須　一見　国立感染症研究所　薬剤耐性研究センター
研究協力者　大野　智裕　国立感染症研究所　応用疫学研究センター

研究要旨

世界的な公衆衛生上の大きな課題である薬剤耐性（AMR）は、集団発生への早期対応が公衆衛生や医療における課題である。本研究では国内外の薬剤耐性菌による集団発生対策に関しアジア太平洋地域で共通するAMR事例のリスク評価方法の検討を行った。

2025年11月にWPROとWHOベトナム事務所がベトナムにおいて実施した研修を支援した。本研修では、10の中核病院（各病院5名）を対象とし、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症を題材としたシナリオに基づくグループワークに加え、カンジダ・アウリス、AMRアウトブレイクにおける抗菌薬適正使用の役割、大規模アウトブレイクの対応をテーマとしたディスカッションを実施した。パネルディスカッションのモデレーション、記述疫学に関する技術支援、ならびに日本におけるアウトブレイク対応経験の共有を通じて研修を支援し、医療機関間の活発な議論と参加者間の認識共有を促進した。その結果、各医療機関における今後の具体的なアクションポイントが整理されるとともに、ベトナム語版AMRアウトブレイクガイダンスの活用が共通認識の形成に有用であることが確認された。本研修支援は、医療機関間ネットワークの強化に寄与するとともに、ベトナムにおけるAMRアウトブレイク対応体制およびFETPの関与状況を把握する機会となった。

これらの活動はWPROと連携し、アジア太平洋地域のAMRアウトブレイク対策の更なる改善に貢献したと考えられた。

Ａ．研究目的

様々な微生物の薬剤耐性（AMR）は、今なお世界的な公衆衛生上の大きな課題である。国内で様々な薬剤耐性菌が監視されているが、その集団発生をいち早く捉えて対応していく事は依然として医療現場や公衆衛生における課題である。本研究では国内外の薬剤耐性菌による集団発生対策に関し、WHO西太平洋地域事務局（WPRO）とWHO国事務所が保健省とともに実施した医療施設AMRアウトブレイク対応力強化指導者研修に参加し、途上国における対応力強化の課題を検討した。

WPROは、2022年に作成した薬剤耐性菌アウトブレイク対応ガイダンスを元に、各国での対応力強化を進めている[1)]。その活動の一環として、①AMRアウトブレイクの探知・リスク評価・対応に係る10のステップを学び、病院環境における AMRアウトブレイク対応能力を強化すること、②現時点での取り組みに関して、円滑にできている点や課題点を整理し、今後WHOを含めた外部からの支援が必要な対策を議論すること、③ワークショップでの学びを他医療機関に展開する段階的な取り組みについて検討し、通常の能力開発プログラムにどのように組み込むかを議論することの3点を目的とするワークショップをベトナムで実施した。本研究では、当該ワークショップへの支援と参加を通して、ベトナムにおける薬剤耐性菌による集団発生対応（実地疫学調査含む）の状況を把握するとともに、アジア太平洋地域における薬剤耐性菌集団発生対応の準備状況や実地疫学専門家養成コース（FETP）の対応力強化への関わりについての情報収集を行うことも目的とした。

Ｂ．研究方法

2025年11月25-27日の3日間、WPROとWHOベトナム事務所、ベトナム保健省が開催した、10の中核病院（各病院5名）を対象とした医療機関AMRアウトブレイク対応力強化のためのワークショップで、WPROが作成したシナリオをベースにしたケーススタディが行われ、そこに協力した。パネルディスカッションではモデレーターとして活発な議論を促すことに加え（図1A）、記述疫学に関する技術的な支援を行い（図1B）、本邦でのアウトブレイク対応の経験について提示するなど、WPRO担当者とともにワークショップを支援した。

Ｃ．研究結果

ワークショップには50名の参加者が参集した。参加者は生成AI等を使用し手早く計算等を実施できていたが、記述疫学にあまり慣れていない参加者も見受けられた。2病院を同グループとして複数のグループワークに取り組んでもらったこと、ベトナムで実際に多くの患者から検出されているカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症をシナリオのテーマに選択したこと、今回、独自な取り組みとして「カンジダ・アウリス」、「AMRアウトブレイクにおける抗菌薬適正使用の役割」、「AMR感染症症例が多数発生した際の対応」についてのディスカッションセッションが設けたことから、医療機関の枠を超えた活発な議論が行われた。また、グループ発表を通じて全体での認識

共有が高まり今後の具体的なアクションポイントについても議論を行うことができた。一方で、ワークショップ全体を通して、ベトナムのFETPの関与は少なかった。

D. 考察

多くの参加者が、ベトナム語版AMRアウトブレイク対応ガイダンスを参照しワークショップに取り組んでおり、系統的なアウトブレイク対応の知識を持ち合わせていない参加者同士が共通認識を持つためにガイダンスやグループワークが有用だった。また、今後リスク評価に関しても、概念の理解を深める取り組みが必要であると考えられた。活発な議論を行う事で、現地での病院間のネットワーク強化としても重要な機会になったと考えられた。本邦以外での薬剤耐性菌集団発生対応の準備状況やFETPの対応力強化への関わりについての情報収集を行う貴重な機会になった。

アジア太平洋のAMRアウトブレイク対策の改善に関しては、今後も、WHO西太平洋地域事務局と連携しつつ、AMRに関するアジア太平洋ワンヘルスイニシアチブ（Asia-Pacific One Health Initiative on AMR：ASPIRE）の理念に照らし合わせて効果が見込まれる活動を更に推進していく事が重要と考えられた。

参考文献

1)World Health Organization Regional Office for the Western Pacific (WPRO). Responding to outbreaks of antimicrobial-resistant pathogens in health-care facilities: guidance for the Western Pacific region. Manila: WPRO; 2022.

図1. ワークショップにおける支援の様子

A. パネルディスカッションでのモデレート　B. 記述疫学に関する技術的支援

